

# 4月から 大学院 医療福祉研究科を開設

星が丘キャンパスに、大学院医療福祉研究科修士課程の設置が認められ、今年4月に開設します。

これで6学部すべてを基礎とする大学院研究科が設置されます。

## 設置の趣旨

現代社会は、少子高齢化の急激な進展、家族形態や生活スタイルの変化など、急速な変貌を遂げています。社会福祉の分野も同様で、福祉ニーズはますます多様化し、社会福祉への要請も、障害の有無に関わらず、すべての人々の自己実現をサポートする自立支援・参加型へと変化してきます。

このような幅広い福祉ニーズに対応した新たな社会福祉システムの研究・開発はもろろん、それを担う深い見識と高度な専門性を備えた人材の育成は、急務の課題といえます。本研究科のソーシャルサービス専攻とコミュニケーション障害学専攻の2専攻は、「人権尊重」「共生」「医療福祉環境創造」を共通の統合理念とし

て誕生しました。ソーシャルサービス専攻はより高度な社会的支援の確立を中心に、コミュニケーション障害学専攻はコミュニケーション障害およびその支援への科学的アプローチを中心に、それぞれ独自の領域を深め、時代と社会の要請に応える研究者と、高度な職業人を育成します。

## 社会に開かれた大学院

### リカレント教育を積極的に推進

社会福祉や医療の各分野で活躍するスペシャリストから、リカレント教育\*\*を参照への要望が高まっています。本研究科はそうした要請を受け、本学の学部卒業生や他大学からの進学者はもろろん、一般企業、官公庁、教育機関、福祉関連機関、医療関連機関

で働く社会人、外国人留学生など、多様な学歴と経歴を持つ学生などを積極的に受け入れます。

このため、大学卒業の要件を満たしている方はもとより、社会福祉施設や機関などで正規職員として、あるいは医療機関で常勤の言語聴覚士または視能訓練士として、入学時点で2年以上勤務している現職者で、施設・機関長から大学院入学後の現職継続の同意が得られる方であれば、本研究科を受験することができます。

試験機会を増やすことにより、外国人留学生、外国大学卒業生、外国大学への留学希望者、並びに社会人など、多様な学生に門戸を大きく開いています。入学選抜試験についても一般学生用の入学試験とは異なる特別選抜試験を実施します。

もちろんカリキュラムも弾力的です。社会人学生の限られた履修条件に対応するため、セメスター制を導入し、すべての授業科目を半年の学期ごとに完結するよう編成しています。また、昼夜開講制を取り入れ、休暇期間などを利用した授業を実施するほか、各専攻の必修科目である「ソーシャルサービス研究」と「コミュニケーション障害研究」を1年前期・後期ともに開講し、後期開講分は集中講義によって短期間で履修できる環境を整えるなど、職業をもつ社会人の受講や10

月入学生に支障や負担が生じないように授業時間割にも配慮しています。

さらに、本学の医療福祉学部開設されている科目は、修了要件単位外で30単位未満無料で履修できるようにし、向学心旺盛な学生を支援していきます。修業年限は2年が標準年限ですが、特に優秀な学生、優れた研究や実践などの実績をもつ学生については、1年間で修了することも可能です。

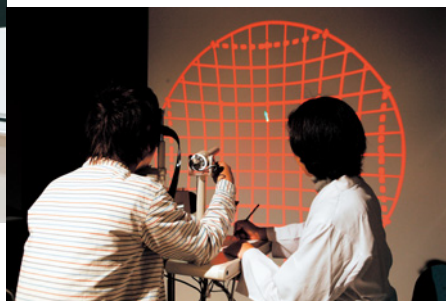


### 優れた教育体制で

#### 社会人学生をバックアップ

本研究科では、社会に開かれた大学院として勤労する社会人のキャリアアップに応えるために、弾力的な履修システムを整えています。

入学時期は、4月と10月の2回。受



\*リカレント教育…ある専門分野の職業人が、その職能を高めるために、当該分野に関するより高度で専門的な知識・技能を修得する機会。また研究能力を修得する機会のこと。

## 研究科長メッセージ



医療福祉研究科長  
永田忠夫教授

社会の変化はそこに生活する人々にこれまでの問題解決方法では対応できない課題を生み出しています。たとえば、社会の成熟に伴い、人々が抱く人生の意味づけが基本的欲求の充足に重点をおくレベルから、それを基盤にしてさらに成長しようとする自己実現の欲求充足をも重視するレベルへと変容し、医療福祉分野においては、基本的欲求充足のための弱者保護から自己実現をサポートする自立支援の観点で福祉をとらえることが重視されるよ

うになってきました。しかし、こうした変化は必ずこれまでの思考パターンでは解決できない新しい課題を生み出しています。その課題を問題意識にまで高め、新しい発想の問題解決方法を創造し、問題解決行動を実行・実践することが必要になっています。そうした意味で、医療福祉領域の問題に関心をもち、「違いを共に生かすことができる社会」「ユニバーサル社会」の実現をめざし、さらなる高度な専門知識・技能を修得する

ことに意欲をもつ学生、特に福祉領域の職場や医療現場で実践活動を通して見出されるさまざまな課題を問題意識として高め、問題解決の方法・技法を創造したり、自ら行っている実践活動の意味づけの明確化などをしたりして、これからの実践活動の展望について考察する学習と研究活動をしたいと思っている学生の教育に力を入れたいと思っています。

### ●お問い合わせと願書等の資料請求先●

愛知淑徳大学 入試広報課

〒464-8671 名古屋市千種区桜が丘23

TEL (052) 781-7084 (直通)

ホームページアドレス <http://www.aasa.ac.jp>

E-mail [kouhou@asu.aasa.ac.jp](mailto:kouhou@asu.aasa.ac.jp)

## 大学院医療福祉研究科

大学院医療福祉研究科  
修士課程

ソーシャルサービス専攻  
入学定員15人

コミュニケーション障害学専攻  
入学定員15人

## 「ソーシャルサービス専攻」と「コミュニケーション障害学専攻」の特色

ソーシャルサービス専攻が目指すのは、複雑多様化した福祉ニーズに対応できる高度な専門職業人の養成です。「精神保健福祉学」と「社会福祉学」の2つの分野に分かれ、それぞれの分野における諸問題を、理論・研究・実践の各方面から体系的かつ学際的に学んでいきます。資格取得として、高等学校教諭専修免許状(福祉)の取得が可能です。

より高度な専門家を養成します。ハイレベルな研究に対応するため、言語聴覚学と視覚科学の専門領域別に2コースを設置し、それぞれの専門に特化することで、学生の研究テーマに即した専門教育を行います。

**2専攻の共通科目**  
**「医療福祉環境創造科目」**  
 2つの専攻の共通科目として、医療福祉の基本理念や関連領域の学際分野、研究方法などを学ぶ「医療福祉環境創造科目」を設置します。主体的に研究活動を展開できる理論と方法論を身に付け、専門性を究めていくための基盤となる科目です。

## 2つの専攻の特色

### ソーシャルサービス専攻

- ◎福祉分野の教育者・研究者の養成
- ◎将来の社会福祉リーダーを養成
- ◎福祉領域で働く職業人教育の重視
- ◎再教育を希望する人をサポート



### コミュニケーション障害学専攻

- ◎専門領域に対応したコース分け
  - ・言語聴覚学コース
  - ・視覚科学コース
- ◎コミュニケーション障害学の教育者・研究者を養成
- ◎リーダー的役割を担うスペシャリストを育成
- ◎医療現場で活躍している職業人教育の重視